



第21回 稲門建築会特別功労賞(業績)

た む ら ゆ き お

田村 幸雄(苗S44)

東京工芸大学風工学共同研究拠点
名誉センター長
兼プログラムコーディネーター

推薦理由

田村幸雄氏は、風工学分野では日本のみならず世界的に、その研究者としての高い能力と風災害の防止のための実践的な工学技術の普及と、そのための国際的な組織化に尽力されてきた実績はよく知られている。しかし、最近特に中国やアジア地域での後進の育成に高い情熱をもって取り組まれ大いに成果を上げておられることは、建築学の他の分野ではあまり注目されてこなかったきらいがある。

氏は大学を修了して以来、一貫して風工学分野の教育研究に従事し、幕張メッセ、東京スカイツリーなど大スパン構造物や高層建築物の耐風設計法の発展とその実践に尽力してきた。日本風工学会・会長、国際風工学会IAWE・会長、日本学術会議・連携会員など学術分野での活動の他、国連・国際防災戦略事務局傘下の「風関連災害軽減国際グループIG-WDRRR」議長などの強風防災活動、気象庁「竜巻等突風の強さの評定に関する検討会」会長としての『日本版改良藤田スケール』の策定など、社会的活動も積極的に進めてきた。これらの貢献が評価され、多くの賞を受賞している。

最近では米マイクロソフト創設者ビル・ゲイツ、米MIT学長ラファエル・リーフ、英王立工芸アカデミー会長アン・ドウリングら、世界の科学技術に貢献した18名のひとりとして、中国工程院・外籍院士に選出された。

現在、東京工芸大学・風工学共同研究拠点・名誉センター長兼プログラムコーディネーターを務めるとともに、中国・重慶大学の教授として風工学都市環境研究所シニアアドバイザーを務めている。また、米国、ポーランド、中国、マレーシア等の15を超える大学で栄誉教授、客員教授等を務めるなど、風工学の教育、研究活動に活発に従事している。

田村氏のこれまでの努力と業績は稲門建築会の誇りとするとところであり、ここに会を挙げて高く顕彰することを求め推薦したい。
(推薦者 中川 武、重村 力)

略歴

- 1946年 福岡県生まれ
- 1971年 早稲田大学理工学研究科修士 修了
- 1981年 早稲田大学 工学博士
- 1983年 東京工芸大学工学部建築学科 講師(1985年 助教授、1989年 教授)
- 2003年 21世紀COE「都市建築物へのバイオフェア」拠点リーダー(～2008年)
- 2004年 日本風工学会・会長(～2008年)
- 2006年 日本学術会議・連携会員(～2017年)
- 2007年 国際風工学会IAWE・会長(～2015年)
- 2008年 グローバルCOE「風工学教育研究のニューフロンティア」拠点リーダー(～2013年)
- 2009年 国際防災戦略事務局UNISDR・風関連災害軽減国際グループIG-WDRRR・議長
- 2013年 気象庁・竜巻等突風の強さの評定に関する検討会・会長

受賞等

- 1993年 日本建築学会・論文賞
- 1994年 日本風工学会・論文賞
- 2004年 米ASCE・Jack E. Cermak メダル
- 2008年 東京工芸大学・特別功労賞
- 2013年 インド風工学会ISWE・名誉フェロー
- 2014年 中国・国家特聘専門家
- 2015年 日本風工学会・デザイン賞：東京スカイツリーの耐風設計
- 2016年 国際風工学会IAWE・Alan G. Davenportメダル
- 2016年 日本風工学会・功績賞
- 2016年 米ASCE・Robert H. Scanlanメダル
- 2017年 中華人民共和国・国家友誼賞

風工学研究拠点



幕張メッセ北ホール



東京競馬場



香港サティン競馬場



東京スカイツリー